長期戦略:テーマ　「SDGs の推進」

提出日　2022年8月24日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者（統轄部署）	総合企画部	実施計画の担当部署	KSC 事務室（キャンパス担当）

1. 実施計画

実施計画（タイトル）		取組開始	達成状況確認年度	学部・研究科での取組み有/無	帳票
8-(12)-⑤	SDGs の推進(KSC 分野) 『誰一人取り残さない』Kobe-sanda　Sustainable Campus への変革	2019 年度	2021 年度	必要なし	不要

内容

1995 年に開設された神戸三田キャンパスには、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」の理念のもと、”Think Globally. Act Locally.”をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う総合政策学部と、自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献することを理念とする理工学部があり、約 6,000 人の学生が学んでいる。2 学部の教育・研究の背景だけでなく、自然豊かなキャンパスで学生生活を送る学生や教職員は、自ずと環境やエコを意識する素養が定着している。

また、2013 年に開設したアカデミックコモンズで展開している、正課外活動としてのアカデミックコモンズ・プロジェクト≪SDGs・タイプ≫≪リード・タイプ≫では、学生たちが自主目標を掲げ、1 年をかけてその目標達成に挑戦している。年々プロジェクト数・参画者は増加し、2019 年度は 19 プロジェクト・約 150 人に達しており、内容も多岐にわたっている。特に、2019 年度から新設した≪SDGs・タイプ≫では、身近にある問題に関心を寄せ、自分たちなりの解決策を導く取り組みがある。以上のとおり、神戸三田キャンパスは SDGs との親和性が高いことから、教育・研究活動に加え、キャンパスでの日常生活の中で構成員一人ひとりが Sustainable Campus の実現に寄与する取り組みをキャンパス全体で実践する。具体的には、構成員の意識の向上を図るとともに学生を巻き込みつつ主体性を維持しながら関学生協とも連携し、キャンパス全体で KSC のブランド化に寄与する取り組みとする。

【具体的な取り組み】

1. SDGs 認知度向上
   KSC で SDGs に関する取り組みを推進するため、まず、学生や教職員など構成員一人ひとりが「SDGs とは何か」など、基礎的な理解を深める。
2. ごみの排出量の削減
   KSCでは、生協店舗および自動販売機で年間約 27 万本のペットボトル飲料が販売されている。そのうち、約 1.7 万本（自動販売機分は除く）は水・ミネラルウォーターである。また、ドリップコーヒーは年間約 3 万杯が紙コップ（重量換算で約 150kg）で販売されている。さらに、生協では無償で買い物袋が提供されている。これらのサービスの享受について、ごみの排出がない方法への代替を推進する。具体的にはマイボトルの導入や水・ミネラルウォーターのペットボトル飲料の販売削減、マイエコバックの利用促進を行う。一般のペットボトル飲料は削減方法を模索しながら、ごみとして排出されるペットボトルのキャップ回収とリサイクルに取り組む。
3. 食品ロスの削減
   生協食堂では、日々相当の料理が廃棄されている。その量は、費用換算すると食材原価ベースで年間 100 万円以上（生協担当者ヒアリング）に上る。三田市や NPO などとの連携方法および発生する食品ロスの有効活用方法を検討する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	SDGs 認知度向上	■認知度向上のための講演会、イベントの開催 ■SDGs 講座の開催 ■学生への SDGs の認識アンケートを実施（KSC 学習環境アンケートの項目に追加）
指標2	ごみ排出量の削減	■マイボトル導入によるキャンパス内飲料販売の紙コップの廃止 ■ペットボトル飲料（水・ミネラルウォーター）の販売削減 ■ペットボトルキャップの回収およびリサイクルの推進 ■マイエコバッグ利用推進によるキャンパス内店舗でのビニール袋の廃止（有料化の検討含む）
指標3	食品ロスの削減	■生協食堂および物販の食糧・食品ロスを、フードバンクを通じて寄贈することで廃絶

目標1＜指標1＞　SDGs 認知度向上

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	■講演会・イベント　1 回開催 ■アンケート　認知度 20%	■講演会・イベント 2 回開催 ■SDGs講座 6 回開催 ■アンケート 認知度 30%	■講演会・イベント ~~2~~ 5 回開催 ■SDGs講座 6 回開催 ■アンケート 認知度 60%	■講演会・イベント ~~2~~ 5 回開催 ■SDGs講座 6 回開催 ■アンケート 認知度 80%	■講演会・イベント 5 回開催 ■SDGs講座 6 回開催 ■アンケート 認知度 100%	■講演会・イベント 5 回開催 ■SDGs講座 6 回開催 ■アンケート 認知度 100%
実績	■講演会(説明会):2回、 イベント:2回 ①総政・理工新入生オリテン説明 アカデミックコモンズ・プロジェクト(以下、「AC PJT」)に SDGs・タイプを新設。同内容に関する趣旨、背景を各学部1回ずつ実施。 ②防災ポスター掲示 「火災」「地震」「暴風・豪雨」発生時に学生がとるべき初期行動を示したポスターを、KSC 各建物の防火扉(80 箇所)に掲示。:AC PJT(学生向け災害時情報共有最適化 PJT「Share info KSC」)と 12 月に協働実施。 ③災害備蓄の有効活用 KSC で有効期限が切れ廃棄される 3,170 セットの災害備蓄を、防止意識と廃棄ロスを防ぐ環境保護意識の向上のため KSC 内で配布する取り組みを、3 つの AC PJT(学生向け	■講演会(説明会):2回、 イベント:1回 ①アカデミックコモンズ・プロジェクト説明会を春学期はオンラインで2回、秋学期は対面で3回実施。1年生への周知、横のつながり創出のため、秋学期に二次募集の形で実施。 ②災害備蓄の有効活用 賞味期限が切れる災害備蓄を昨年度に引き続き配布、加えて新たに賞味期限が切れる備蓄品 200 セットを KSC 内で配布。2020 年 12 月末までに計約 3,400 セットすべてを学生等に配布した。これにより、賞味期限切れの防災備蓄品の廃棄の防止、廃棄にかかる費用数百万円削減し、防災意識の向上に貢献することができた。 ■SDGs講座　開催なし コロナ禍により実施することができなかった。 ■アンケート　認知度:　―	■講演会(説明会):5回、 イベント:1回 ①5学部の新入生オリテンで、アカデミックコモンズ・プロジェクト SDGs・タイプの趣旨、背景を説明。 ②「START UP !KSC2021」でアカデミックコモンズ・プロジェクト相談会を実施。 ■SDGs 講座　5回 アカデミックコモンズ・プロジェクトのアクティビティとして SDGs をテーマとしたワークショップを 5 回開催。 ■アンケート　認知度:　― 毎年、アカデミックコモンズの利用やチューターの認知度等を主とした「KSC 学習環境に関するアンケート調査」と同時に『SDGs』の認知度について調査をしていたが、コロナ禍により経年的な調査データ			

	災害時情報共有最適化 PJT「Share info KSC」、減災推進 PJT「結」、地球環境保護 PJT「ECO STATION」)と 3 月に協働で実施。 ■アンケート　　認知度:53.1% 12/2(月)～12/23(月)に実施した「2019 年度　KSC 学習環境に関するアンケート調査」(回答数 385 名)における、『SDGs』の認知度を問う設問に対する結果。200 人が「知っている」と回答(同設問の有効回答:377 人)。	毎年、アカデミックコモンズの利用やチューターの認知度等を主とした「KSC 学習環境に関するアンケート調査」と同時に『SDGs』の認知度について調査をしていたところ、コロナ禍により経年的な調査データが得られないことから実施を見送った。	が得られないことから昨年度に引き続き、実施を見送った。			

目標2＜指標2＞ごみの排出量の削減

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	・学生推進グループの組織化方法検討	・学生推進グループの立ち上げ ・グループによる推進プロジェクトの検討	・産学連携によるごみの排出量の削減のための枠組みの構築 ・学生プロジェクトによる目標値の設定 【検討項目】 ■KSC オリジナルマイボトル導入 ■エコバック導入推進 ■ペットボトルキャップリサイクル ■ペットボトル飲料削減	・目標設定に基づくプロジェクトの推進	・目標設定に基づくプロジェクトの推進	・目標設定に基づくプロジェクトの推進
実績	■学生推進グループ「CAMP×US」の立ち上げ ・有志学生約 30 名のグループ。 ・2 月に実施したスノーピークとのプレ・キャンプで、KSC オリジナルのマイボトルの共同開	■「CAMP×US」とスノーピークによるオリジナルマイボトルの開発 ・2020 年 8 月から約半年間かけスノーピークと共に開発。4000本を製作。	■KSC オリジナルマイボトル PR ・マイボトルは 2,540 本を販売。 ・マイボトルと BiZCAFE によるペットボトル削減エコシ			

	発について議論。 ・今後、締結するスノーピークとの包括連協協定の事業の一つとして推進。	・マイボトルおよび SDGs推進のための PV を作成 ■マイボトルに無料飲料を提供する「BiZCAFE」を KSC に誘致。２０２１年４月にオープンする体制を整備。	ステムを学外コンテストで発表、最優秀賞を受賞するなど周知活動を展開。			

目標3＜指標3＞食品ロスの削減

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	・フードバンク、NPO など連携先の検討 ・三田市との連携方法模索	・フードバンク、NPO など連携先の検討 ・提供可能食糧の洗い出し ・三田市との連携方法模索	・食糧提供方法の検討 ・目標値の設定	（連携先の確定を前提として） ・フードバンクへの食糧提供開始		
実績	進捗なし。	当初、生協で提供する食事を冷凍保存し、提携先等に提供することで食品ロスを削減することを考えていた。しかし、想定していたフードバンクや NPO、三田市と連携方法を模索・検討したが、いずれの組織とも実現性がないことが判明した。 この状況を踏まえ、当該目標はこれ以上の推進が困難であることから、指標設定を断念する。	昨年度の検討結果のとおり、食糧ロスをフードバンク等に提供することはできないが、代替案として、新たに、生協食堂営業後に廃棄される食糧を KSC 内で学生に提供することを有志の学生たち（moguneru）と検討・模索している。 この道筋が明確になった段階で指標設定の見直しを行いたい。			

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
ごみ排出量の削減	策定段階	推進プランの検討		実現可能な目標設	具体的施策の展開･実施	
	2023 年 3 月末段階	－	－	－	－	－
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	－
	策定段階	具体的施策の展開･実施				
	2023 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
食品ロスの削減	策定段階	フィジビリティおよび連携先の検討		目標設定の廃止		
	2023 年 3 月末段階	－	－	－		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	－
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費　単位:万円	2019 年度　承認	2020 年度　承認	2021 年度　承認	2022 年度　承認	2023 年度　承認	2024 年度	左記以降
非公開							
人員・人件費　単位:万円	2019 年度　承認	2020 年度　承認	2021 年度　承認	2022 年度　承認	2023 年度　承認	2024 年度	左記以降
非公開							

４．進捗状況･得られた成果

2019 年度	2019 年度からアカデミックコモンズ・プロジェクトに「SDGs・タイプ」を新設し、新入生オリエンテーションで趣旨や背景を伝えられたことで積極的な申請があった。採択した 19 プロジェクトのうち、9 つが SDGs・タイプであった。各プロジェクトの活動を基礎として、大学の課題や施策に対して協働して取り組む成果が 2 つの観点で得られた。 また、マイボトルの導入については、当初より前倒しして学生推進グループ「CAMP×US」を組織し、今後の具体的な取り組みを推進していく母体を整備することが出来た。
2020 年度	2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初予定していた企画等を実施できなかったがオンラインなどを活用しながら、学生を巻き込みながら SDGｓの推進に取り組むことができた。アカデミックコモンズ・プロジェクトは、18 プロジェクトを採択し 9 つが「SDGｓ・タイプ」であった。また、昨年度組織した「CAMP×US」のメンバーとスノーピークによるマイボトル開発により、オリジナル・マイボトルを完成させ、2021 年 3 月に 4,000 本を受領した。ペットボトル削減の実現のため、マイボトルに無料で飲料を提供する「BiZCAFE」を誘致することで、産学連携による「ペットボトル削減エコシステム」を構築した。さらに、「CAMP×US」の学生活動をより KSC で特徴づけていくため、商標登録出願を行った。
2021 年度	2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が再拡大するなどして、春学期は一部オンライン授業を導入したものの、アカデミックコモンズ・プロジェクトは過去最多の 23 プロジェクトを採択、15 プロジェクトが「SDGs・タイプ」であった。 KSC の学生限定オリジナルマイボトルは 2,540 本を販売。マイボトルが直接の効果とまでは言えないが、キャンパス内の自動販売機、関学生協によるペットボトル飲料の販売本数は 2018 年度の 27 万本に対し、18 万 6 千本減少した。また、BiZCAFE でのドリンク提供数は 77,340 杯であった。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

５．今後の課題及び方向性

2019 年度	2019 年度より新たに設定した実施計画であり、今後の課題及び方向性は今年度の取り組みを踏まえて整理する。
2020 年度	「SDGs 認知度向上」の取り組みにおいて、アカデミックコモンズ・プロジェクトをうまく活用し、関心の高い学生を積極的に巻き込みながら、学生からの情報発信により認知度向上を図る。 「ごみの排出量の削減」の取り組みにおいて、スノーピークとマイボトルを共同で開発し、2021 年度から導入を目指すが、同取り組みは長期戦略テーマ「神戸三田キャンパス（KSC）の競争力強化（キャンパス全体の環境整備）」の施策とも重複するため、費用面も含めて連携しながら推進していく必要がある。

2021 年度	「SDGｓ認知度向上」という観点で、高校で SDGs の学習をしてきた学生たちの意識が高く、アカデミックコモンズ・プロジェクトが大学入学後に具体的な形で SDGｓに貢献したいという学生たちの受け皿としてうまく機能している。これらのチャレンジをいかに支援しながら、KSC の取り組み・魅力として情報発信していくかが課題である。 「ごみの排出量の削減」では、産学連携による「ペットボトル削減エコシステム」による大きな成果が期待できる。KSC 部門では、特に当該目標の高い達成を目指して取り組んでいきたい。また、この取り組みでは、継続的（毎年度の新入生）に KSC の学生にマイボトルを所持してもらうことが重要であり、CAMP×US およびスノーピーク、BiZCAFE と連携しながら、KSC 学生の周知やプロモーション活動が欠かせない。 「CAMP×US」については、商標登録を行い、学生たちの活動そのものをブランド化し、KSC の魅力・特徴として位置付けていきたいと考えている。また、「食品ロスの削減」に関する取り組みを断念する代わりに、KSC として「ごみの排出量の削減」に関する目標に集中的に取り組むことで、他大学に勝る成果に結びつけたい。 引き続き、「神戸三田キャンパス（KSC）の競争力強化（キャンパス全体の環境整備）」の施策と費用面も含めて連携しながら推進していく必要がある。
2022 年度	「SDGｓ認知度向上」では、引き続き学生の関心・意欲は高く、アカデミックコモンズ・プロジェクトの SDGｓ・タイプで 9 プロジェクトを採択し活発な活動が継続している。ポストコロナを見据え、この流れをいかにうまく次の代に伝えていけるかが課題である。 「ごみの排出量の削減」では、オリジナルマイボトルの所持率は特に 1 年生において、昨年に引き続き堅調に推移している。取り組みに対するマスコミ等の関心も高く、TV 取材等も受け情報発信ができている。 「CAMP×US」については、1 年生メンバーも加わり組織として充実してきているが、具体的な取り組みを通して活動に対する意識を高めることや情報発信を主体的に実施していくことが課題である。
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	SDGs の推進に係る KSC におけるプロジェクトを認めます。ただし、概算費用については保留とし、内容詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG にて判断します。
2020 年度	SDGs の推進に係る KSC におけるプロジェクトを認めます。ただし、費用については、一般事業ガイド予算で対応してください。
2021 年度	―
2022 年度	―
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・アカデミックコモンズにおける学生プロジェクトに「SDGs タイプ」を新設し、6つのプロジェクトが立ち上がった。 ・スノーピークとの連携協定に基づく「マイボトル事業」を通じて、ペットボトル削減に取り組む。	継続 ・ 廃止	・KSC のサステナブルキャンパス実現への具体策検討

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	